

●問い合わせ 中央公民館
TEL 32-1132 FAX 37-1153
●編集 公民館報編集委員会
●印刷 株式会社プラルト

発行
2019
1/30

まつもと 公民館報



シリーズ 受け継ぎ伝える松本のたから 41

無病息災を願う小正月の伝統行事 道祖神木像を祀る三九郎

1月13日(日)芳川小屋で三九郎が行われました。三九郎は、松本地域で小正月を中心に行われる、子どもたちの火祭りです。三九郎と呼ぶのは県内では中信地方だけで、他の地域ではどんど焼きなどと呼ばれています。三九郎という呼び名の由来は、道祖神祭りをする神主福岡三九郎の名からきた説、三九郎と呼ぶ道祖神木像(ヒトガタ)を供えるからという説、凶作・重税・疾病の三つの苦勞三九郎説などありますが、はっきりしていません。子どもたちの健康やかな成長と、無病息災・五穀豊穡を願いながら…。



空穂生家

カルタゲームをしながら百人一首の歌に触れるこの教室は、窪田空穂の生家で、年末年始それぞれ2回催され、15年以上続いています。

子どもたちに親しまれ

百人一首に触れ、短歌に親しむ恒例の子どもたちの「百人一首教室」が、窪田空穂記念館の空穂生家で開かれました。当日は小学生15人が参加し、講座や競技を楽しみました。

伝統文学に親しむ取り組み

窪田空穂記念館 恒例の行事

15人を無作為に3グループに分け、いよいよカルタ大会の始まりです。学年もレベルもさまざまですが、はじめての子も常連の子も参加していました。戸惑っていて、なかなか札を取れない子どももいましたが、組み合わせを変えゲームを重ねるうちに戸惑いも薄れ、夢中

いよいよ模擬競技

最初に指導の先生から、百人一首は飛鳥時代から鎌倉時代初期までの百人の歌人による和歌から、藤原定家が一人一首ずつ選んでつくった秀歌撰集のことで、カルタになったのが江戸時代、競技としていう歴史と、カルタ競技のルールの説明がされました。

記念館の取り組み

生家は空穂が生まれた明治10年当時の本棟造りの姿で、庭園と共に窪田空穂記念館の付属施設として、保存される古民家です。

伝統文化に親しむ

百人一首教室は、万葉集や

の部屋です。

最初に指導の先生から、百人一首は飛鳥時代から鎌倉時代初期までの百人の歌人による和歌から、藤原定家が一人一首ずつ選んでつくった秀歌撰集のことで、カルタになったのが江戸時代、競技としていう歴史と、カルタ競技のルールの説明がされました。

様変わりする環境

現在の小学校では、授業で百人一首を取り上げていません。参加した子どもたちに百人一首に興味を持ったきっかけを聞いてみると、百人一首を題材にした劇場版のアニメや、実写版の映画の影響が大きい様子でした。



負けないぞ！ 緊迫の一瞬

古今和歌集、新古今和歌集の古典研究の学者であった窪田空穂にちなみ、児童のときから和歌・短歌を身近に楽しむ機会を提供しています。囲碁教室と将棋教室の歴史も古く、平成12年に遡ります。

窪田空穂記念館から歩いて5分のところにある、芝沢小学校の当時5年生の子どもたちが、地域の大人を巻き込んだ行事をきっかけに、囲碁教室が誕生しました。続いて現在も指導されている日本将棋連盟塩尻支部のサポートを受けて将棋教室が始まりました。このように伝統文化を広める活動は、記念館とともに地元の子や大人たちが作り上げてきた歴史を持ちます。少子高齢化の影響が避けられない中、記念館は教室を継続するために、いろいろ工夫をしています。文化活動は地域に根付いている限り、未来に繋がると思っています。

松本さんぽ

～今どきのまゆ玉～

三九郎に欠かせないのが「まゆ玉」。米粉で作ったまゆ型のだんご。柳の枝にさして三九郎の火で焼いて食べれば、1年間は風邪をひかないと言われる。最近まゆ玉も多様化し、枝の先に目立つのがマシュマロ。形と色合いがまゆ玉に似ているからか、枝の先に咲く餅花の多数派になりつつある。



(撮影：2019.1.13 北門大井戸公園)

「楽しく学び私達のまちづくりの未来を創る」
第34回公民館研究集会 地域づくり市民活動研究集会
 ●テーマ (楽しく+前向き) × みんなの実践 II 地域の未来
 ●期日 2月17日(日) 午前9時30分～午後4時30分
 ●会場 松本市中央公民館(Mウイング) 6階ホールほか
 ●参加費 無料

集会の目的

私たちが、生活している身近な地域にも、「一人暮らしの高齢者が増えた」「町会の行事に若い人が出てこない」「子どもを見かけなくなった」など、さまざまな困難があります。自分の将来の暮らしに不安を感じている方もいることでしょうか。

このような時にこそ前向きに、楽しみながら自分でできることを見つけ取り組んでいくことが大切ではないでしょうか。困難を乗り越え、魅力的なまちづくりを進めるために、皆さん一人ひとりにできることがあるはずです。

この集会は、33回の歴史を重ねてきた、公民館研究集会をベースにしています。市民の皆さん・市民活動団体・行政機関などがお互いに学び合い、今後の活動につながる「きっかけ」を見つける場です。



昨年の全体会の様子

集会の内容

◆開会式・感謝状贈呈式
 午前9時30分～10時
 公民館活動の推進功労者に感謝状を贈呈します。

◆基調講演

午前10時～11時
 東京大学大学院教授 牧野篤氏が、前向きに楽しく地域づくりを進めることについて講演します。

◆市民活動商店街

午前11時～12時30分
 公民館活動団体や市民活動団体などが活動発表します。

◆分科会

第1分科会
 12時30分～午後3時30分
 子どもたちの本音を知り、子ども目線を生かした地域活動を探ろう！

第2分科会
 楽しみながら「仲間づくり＆生きがいづくり」―松本山雅を活かした地域づくりの取り組み―

第3分科会
 そうなの？障害者あるある！～出会いの場・しゃべり場・共感する場～

第4分科会
 子どもたちのほっとできるところって？学校？家庭？他にも…？

第5分科会
 超少子高齢社会を支える地域の力

第6分科会
 必要とされる町会ってなんだろう？

第7分科会
 この先人口が減るとどうなるの？

第8分科会
 地域の見える化～GISの

活用法とは～
 第9分科会
 協働～市民と市の心がけ～
 第10分科会
 松本の歴史・文化を次世代に伝えていくために
 第11分科会
 松本市の交通問題について話し合いませんか？

◆全体会(まとめの会)

午後3時45分～4時30分
 各分科会の報告をもとに、集会を振り返ります。



申し込み

2月7日(木)までに、必要事項(氏名/住所/電話番号/参加を希望する分科会(第2希望まで)など)を最寄りの地区公民館、または生涯学習課・中央公民館(☎32-11132 ☎37-11153)へ

おこひる

雲一つない秋晴れ。風もなく絶好のウォーキング日和。同伴者の妹と、ワクワク気分が集印帳を首にかけて、ショートコースの

一番印所「筑摩神社」を目指す。深志神社と勘違いをするという失敗を乗り越えて、無事印判をいただいて、二番印所へ向かう▼筑摩橋を渡り、あがたの森公園の鮮やかな紅葉に引き込まれるように、旧制松本高等学校に寄ることになった。喫茶室の香ばしいコーヒーで一息ついた。とりとめのない話をしながら「松本市美術館」「はかり資料館」「時計博物館」と四番印所まで順調に進んだので、旧開智学校もプラスして、午後一時過ぎにゴールの松本城入り口に到着した▼五番結印「国宝松本城」「完歩之証」の印判をいただく、自然に顔がほころんでいた。思いがけない『うどん汁』のおもてなしに身も心もホカホカになった▼四十数年も県外で暮らしてきた私は、まだ半分ほど観光客の感覚なのか。もつと松本を楽しみたい。「松本城ウォーク2019」のコースは「ミドルコース」か「温泉コース」かで迷うところだ。

歴史探訪 探る松本 9

商業・工業と共存し、成長する松南地区

公営住宅やマンションが立ち並び、駅や商業施設があり、利便性に富み、福祉の拠点として発展する地区です。

地区の現状

JR篠ノ井線の南松本駅を中心とした地区で、地域の方には南松（なんまつ）と親しまれています。大型ショッピング施設や、スポーツクラブ、食品工場などが共存する地区です。松南地区は、9町会からなっており、平成30年12月1日現在、人口は54,399人、2537世帯で、35地区のうちでは平均的な規模です。

歴史と文化

松南地区の一角からは、縄文から平安時代の遺跡や遺物が多数発見されています。弘法山古墳を造った人びとが住んでいた地区でした。

昭和14〜17年にかけて、この地区周辺に日本ステレンス松本工場、宮田自転車製作所、石川島芝浦タービン（当時は軍需工場）などができ、従業員は通勤や資材運搬のため、昭和19年に南松本駅が開業しました。廃業したり、引き揚

げたりした所はありませんが、新たに製粉工場や飲料メーカー、食品工場などが造られ、今に引き継がれています。それらの会社のための住宅も数多く建設されたため、街は賑わっていきました。

昭和24年には、今の開明小学校の場所に、全国に先駆けて松本市営競輪場が建設され（昭和28年に閉鎖）、多くの人がこの場所を楽しんだことと思います。競輪の夜明けとなったこの競輪場は、日本の競輪文化に貢献しました。



これからの松南

松南地区は神社・仏閣がない珍しい土地柄です。祭りなどがなく、町会同士が集う催



しがあまりありませんでした。9町会が1つにまとまり、絆を深めるために、平成5年に「なんぼ未来(ゆめ)まつり」を開催しました。地元イオン駐車場を会場に、各町会が屋台を出し、カラオケ大会や地元の小中学生による吹奏・合唱の発表会が行われました。子ども達がお御輿を担いで練り歩くなど、参加者が一体になる祭りとなりました。平成30年で第26回を迎え、これからも繋いでいきたい文化です。

また、平成28年には総合社会福祉センターの隣に「なんぼくプラザ」ができ、福祉の拠点として地域に密着しています。町会同士の繋がりを深め、便利で暮らしやすい地区を目指し、商業・工業施設と共に発展を続けます。

わがまち自慢(特別編)

ましもUPRIDE

♪まつもくと俺の誇り♪

12月9日、松本山雅FCのJ2初優勝と4年ぶりのJ1昇格決定を祝して、松本市街地における記念パレードと、国宝松本城本丸庭園における報告会が行われました。パレードには5万人、報告会には5000人のファン・サポーターが集まりました。選手に対して1年間の活躍をねぎらい、選手とサポーターは一



緒に優勝と昇格の喜びを分かち合っていました。1試合平均1万3000人を超える入場者が集まる、熱い想いの山雅サポーターですが、それぞれ地域において、さまざまな応援の仕方では山雅を支えています。

神林地区ではスタジアムに続く通りを「山雅街道」として、緑の旗を掲げて雰囲気作りをします。今井地区では応援団が地区体育館に集まって、選手の応援横断幕を作成します。



地産地消のかんたんレシピ

ホクホクでモチリな『長芋チヂミ』

焼くとトロロが大変身!!

材料: 長芋、サラダ油、めんつゆ、花かつお、キザミのり

1. 長芋は皮をむき、すりおろす
2. フライパンにサラダ油をひいて、一口大に広げる
3. 火をつけて両面を焼く
4. 花かつお・のりを乗せて、めんつゆをかける

